

平成26年度熊本県学力調査「ゆうチャレンジ」 中学校第1学年 数学 出題のねらい等

連番	大問	中問	小問	領 域	学年	学習指導要領の内容等	出題のねらい	観 点				問題類別	
								数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	知識	活用
①	1	(1)		数と式	1年	A(1)ウ 正の数と負の数の四則計算	正の数と負の数の減法ができること。			○		○	
②		(2)		数と式	1年	A(1)ウ 正の数と負の数の四則計算	正の数と負の数の四則の混じった計算ができること。			○		○	
③		(3)		数と式	1年	A(2)ウ 簡単な一次式の計算	分配法則を使って数と一次式の乗法、及び同類項をまとめることができること。			○		○	
④		(4)		数と式	1年	A(2)エ 式の値	文字式に数を代入して、式の値を求めることができること。			○		○	
⑤	2	(1)		数と式	1年	A(2)エ 文字を用いた式	文字を用いた式で表された数量の関係を見だし、式の意味を考えることができること。		○				○
⑥		(2)		数量関係	小6	D(4)イ 資料の調べ方	柱状グラフが表している数量を理解していること。				○	○	
⑦		(3)		図形	小6	B(3)ア 角柱及び円柱の体積	角柱の体積を計算によって求めることができること。			○		○	
⑧		(4)		図形	小6	C(1)イ 対称な図形	線対称な図形をかくことができること。			○		○	
⑨		(5)		関数	1年	C(1)エ 比例の式、グラフ、座標	比例の式からグラフ上の座標を求めることができること。			○		○	
⑩		(6)		関数	1年	C(1)イ 反比例の意味	反比例について、比例定数の意味を理解していること。				○	○	
⑪	3	(1)		数量関係	小6	D(5) 起こり得る場合	起こり得る場合を調べようとしていること。	○					○
⑫		(2)		数量関係	小6	D(5) 起こり得る場合	起こり得る場合を順序よく整理して考えることができること。		○				○
⑬	4	(1)		数と式	1年	A(2)ア 文字を用いることの必要性和意味	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができること。			○		○	
⑭		(2)		数と式	1年	A(2)ア 文字を用いることの必要性和意味	文字を用いて数量の関係を式に表したり式の意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて説明することができること。		○				○
⑮	5	(1)		関数	1年	C(1)イ 比例の意味	比例の意味を理解していること。				○	○	
⑯		(2)		関数	1年	C(1)オ 比例の活用	比例の考えを利用して、身の回りの問題を解決することができること。		○				○
⑰		(3)		関数	1年	C(1)ア 関数関係の意味	具体的な事象の中に関数関係を見いだそうとしていること。	○					○
⑱	6	(1)		数と式	1年	A(3)ア 方程式の解の意味	方程式の解の意味を理解していること。				○	○	
⑲		(2)		数と式	1年	A(3)ウ 方程式の活用	問題の中の数量やその関係から、二通りに表される数量を見だし、文字を用いた式や数での表し方を考えることができること。		○				○
⑳		(3)		数と式	1年	A(3)ウ 方程式の活用	問題の中の数量やその関係から、二通りに表される数量を見だし、文字を用いた式や数での表し方を考えることができること。		○				○

※ 網掛けの問題は、平成25年度調査において課題が見られた内容の改善状況を見る問題として出題しています。